

テーマ4 「叱る」と「ほめる」

【ねらい】

事例を通して叱り方やタイミングについて話し合い、叱る意味や叱り方を考えるとともに、ほめ方やほめるタイミングについても自分なりのポイントをつかむことができる。

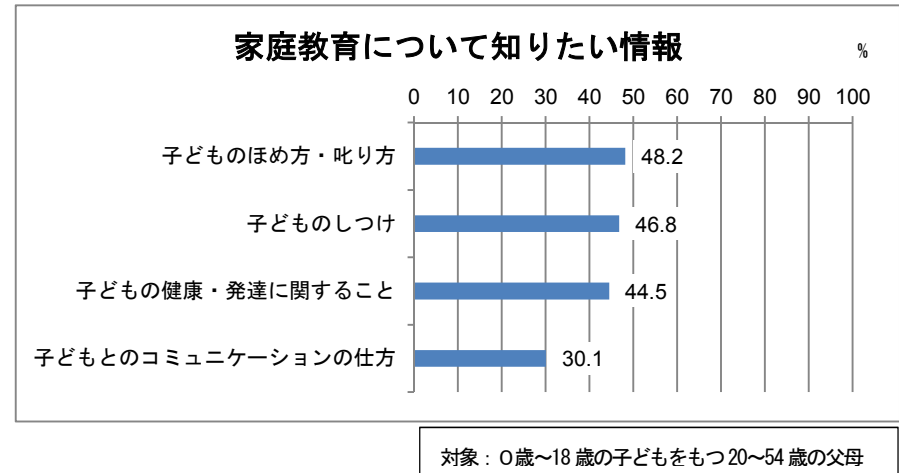
【活動の流れ】

- 1 事例を読み、「しかる派」「しからない派」「後でしかる派」のどれに近いかを経験から考え、理由も含めてワークシートに書く。
- 2 ワークシートに書いたことを発表し、話し合う。
- 3 話し合いを聞きながら、叱り方やほめ方のポイントだと思うことをワークシートに書く。
- 4 ワークシートに書いたことを交流し合う。
- 5 ファシリテーターが、まとめをする。ポイントを実践する意欲がわくようにする。

【支援のポイント】

- 参加者が事例の場面を想像しやすいように事例を読む。または、子ども役と親役に分かれて役割演技により場の雰囲気を出すように努める。
 - 事例は叱ることであるが、話し合いの中でほめることにも話が展開するように配慮する。
 - 現在はトラブルを起こさせないように前もって親が対処することが多いが、ある程度のトラブルは子育て上必要であることを知らせ、トラブルを避けることだけでなく、トラブルが起きたときにどのように子どもと向き合っていくかを学ぶことの大切さを知らせる。
 - 叱る時に感情で叱っていることがないか、また子どもに叱っている真意が伝わっているかなど、一度振り返ってみる必要があることを知らせる。
 - 子どもをほめる時に、親の思いに沿った行動をした時だけになっていないか、子どもが自信を持ったり、認められたという感情を持ったりするようなほめ方ができているかを振り返ることが大切なことを伝える。
- また、親の思いにあった行動をした時だけほめていたのでは、子どもが自分の気持ちを抑え、親の顔色を見ながら親の思いに合うように行動しようとし(しやめる「よい子」)、疲れしまうこともあることを伝える。

【参考資料】



【平成28年度文部科学省委託調査「家庭教育の総合的推進に関する調査研究」】

子育て場面での意識

	「よくある」の%
○子どもが成長したと感じる	63.2%
○子どもが親に対して思いやりのある言葉や思いやりのある言葉や態度を示してくれたと感じる	45.0%
●子どもを感情的に叱ってしまう	23.4%
●子どもに干渉しすぎてしまう	18.5%

【第4回子育て生活実態基本調査（ベネッセ教育総合研究所2011）】



【滋賀県家庭教育啓発ポスター2017】

三行詩コンクール入賞作品より抜粋

- ◇勉強できない スポーツできない 字が汚い それでもほくは何かもっている きたいしてよ お母さん
 - ◇家では靴を並べるのが決まり いやというほど怒られた 人の家に行ったとき 立派だとほめられた
- 【楽しい子育て全国キャンペーン 三行詩コンクール 2017より】